

令和3年第1回定例会（2月議会）

農林水産委員会提出資料

（所管事項関係）

令和3年2月10日

農 林 水 産 部

目 次

- 1 カドミウム低吸収品種「あきたこまちR」について〔水田総合利用課〕 ----- 1
- 2 秋田県市町村未来づくり協働プログラム～八峰町プロジェクト～
「おがる八峰しいたけプロジェクト」事後評価について〔園芸振興課〕 ----- 3
- 3 国営かんがい排水事業「八郎潟」地区の概要について〔農地整備課〕 ----- 5
- 4 ハタハタの漁獲状況と今後の対応について〔水産漁港課〕 ----- 7
- 5 秋田林業大学校における林業トップランナー養成研修の取組状況について
〔森林整備課〕 ----- 9

1 カドミウム低吸収品種「あきたこまち^{アール}R」について

水田総合利用課

平成24年からスタートした「あきたこまちR」の育種が完了し、今後、令和7年の導入に向けて取り組んでいく。

1 「あきたこまちR」の育種

- 農業試験場において、「あきたこまち」にカドミウム低吸収性品種「コシヒカリ環1号」を交配し、得られた個体に「あきたこまち」を7回戻し交配することで、カドミウム低吸収性を付与した品種を育成し、令和2年6月に「あきたこまちR」で品種登録出願した。
- 「あきたこまちR」は、出穂期、成熟期、収量、玄米品質、食味等の主要な特性が「あきたこまち」と同等である。

2 「あきたこまちR」導入により期待される効果

- 本県では、カドミウム汚染米を発生させないための取組として、市町村ごとに生産防止計画を策定し、出穂期の前後各3週間の湛水管理を徹底するとともに、汚染米が市場に流通しないよう、厳格に区分管理を行ってきた。
- 「あきたこまちR」はカドミウムをほとんど吸収しないため、湛水管理を実施しなくても食品衛生法の基準値を満たすことが可能で、農家負担の軽減が図られるとともに、より安全な秋田米を消費者に提供できる。

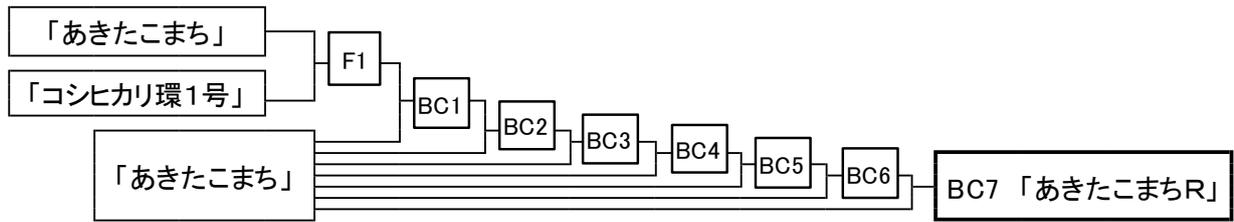
3 「あきたこまちR」栽培上の注意点

- 一般品種と交雑すると低吸収能力が低下するため、自家採種を行わず、毎年種子を更新する必要がある。
- マンガン吸収能力の低下が認められるため、土壌中マンガンの濃度の低い土壌では、ごま葉枯病の発生に注意する必要がある。
- 今後、各種試験データに基づき、詳細な栽培指導マニュアルを作成する。

4 「あきたこまちR」導入に向けた今後のスケジュール（案）

令和元～3年	奨励品種決定試験
令和3年度末	奨励品種採用
令和4年度	原原種生産開始
令和5年度	原種生産開始
令和6年度	一般種子生産開始
令和7年度	一般栽培開始

【参考1】「あきたこまちR」の育成系譜



※ 上段：交配母本、下段：花粉親

【参考2】「あきたこまちR」の特性

品種・系統名	あきたこまちR	あきたこまち
早晩性	早生	早生
いもち耐病性		
葉いもち	やや弱	中
穂いもち	やや弱	やや弱
耐冷性（障害型）	強	中
高温登熟耐性	中	中
穂発芽性	やや難	やや難
出穂期（月日）	7月31日	7月31日
成熟期（月日）	9月12日	9月11日
最高分けつ期茎数（本/m ² ）	487	498
稈長（cm）	73.0	74.1
穂長（cm）	17.7	17.3
穂数（本/m ² ）	400	409
倒伏（0～5）	0.0	0.0
玄米収量（kg/a）	57.3	57.2
くず米重（kg/a）	1.6	1.4
千粒重（g）	22.9	23.0
品質（1～9）	2.5	2.5

※ 秋田県農業試験場奨励品種決定基本調査（平成29年～令和元年）の平均値

施肥；基肥 N 0.6kg/a、追肥（減数分裂期）N 0.2kg/a

※ 玄米収量、くず米重は篩目1.9mm

※ 玄米収量、くず米重、千粒重は水分15%換算した値

※ 倒伏は達観評価（0（無）～5（甚））

※ 品質は（一財）日本穀物検定協会東北支部調査（1（1等上）～9（3等下）、外）

【参考3】玄米中のカドミウム濃度の状況（令和元年奨励品種決定試験データより）

ほ場	土壌カドミウム濃度 mg/kg	品種・系統名	玄米カドミウム濃度 mg/kg
A	0.56	あきたこまちR	0.005
		あきたこまち	0.132
B	3.20	あきたこまちR	0.014
		あきたこまち	0.430
C	1.80	あきたこまちR	0.018
		あきたこまち	0.528

※ 両品種ともに、湛水管理を実施していない。

※ 玄米カドミウム濃度が0.4mg/kgを超える場合、汚染米となる。

2 秋田県市町村未来づくり協働プログラム～八峰町プロジェクト～ 「おがる八峰しいたけプロジェクト」事後評価について

園芸振興課

1 プロジェクトの目的

若者の雇用の場を確保するため、菌床しいたけの実践研修施設等を整備するとともに、地元食材を使用した魅力ある商品づくりの取組などにより、人口減少の抑制と地域の活性化を図る。

2 プロジェクトの概要

策定年月日	実施期間	あきた未来づくり交付金	総事業費
平成28年1月15日	平成28年度～令和元年度	200,000千円	722,855千円

※ 菌床しいたけの実践研修施設（栽培棟等）の整備や販売PR活動等の実施

3 プロジェクトの成果指標と達成状況

指標名	基準値 (H26年度)	目標値 (R元年度)	実績値 (R元年度)	達成率 (%)
菌床しいたけ関連産業の新規就業者数(人)	199	305	305	100.0
菌床しいたけ販売額(百万円)	625	1,000	899	89.9
菌床しいたけ関連の加工食品等の開発(品)	0	5	4	80.0

4 経済波及効果分析

(一財)秋田県経済研究所が行った経済波及効果の分析結果

項目	総合効果(百万円)
ハード事業(菌床しいたけ関連施設の整備)による経済波及効果	847
ソフト事業(特産品開発、定住イベント等)による経済波及効果	135
プロジェクト成果(菌床しいたけ販売額)による経済波及効果	321
合計	1,304

※ 端数処理の関係で、内訳と合計は一致しない。

5 全体評価

- 菌床しいたけ関連産業の新規就業者数は、目標を達成しており、それぞれが地域で活躍している。
- 菌床しいたけの販売額は、生産者の高齢化等の影響により目標を下回っているが、令和3年度には新規就農者の生産施設が本格稼働し、販売額の向上が期待される。
- 菌床しいたけの加工食品は、オイル漬けやタップナードなど4品が開発され、現在も町内事業者により新商品開発が進められているなど、商品数の増加に結びつく動きが見られる。

6 今後の方針

- 八峰町では、菌床しいたけ生産者の所得向上を図るため、マーケティング調査や更なる品質改善に取り組むとともに、地域内で摘み取り手の情報を共有し、生産拡大に伴う労働力を確保することになっている。
- また、事業者の自発的な商品開発や市場開拓を促進することにしており、県としても、これらの取組を引き続き支援する。

【参考】プロジェクトの構成事業

単位：千円

事業名	総事業費	うち交付金
八峰町実施事業		
1 菌床しいたけの研修施設の充実等による就労の場の確保	664,394	200,000
菌床しいたけ実践研修施設等の整備	605,663	200,000
自立営農に向けた新規就農者への支援	58,731	
2 魅力ある特産品づくりと積極的なPR及び移住・定住の促進等	37,678	
菌床しいたけなど地元食材を使用した「八峰白神ブランド」の強化	2,313	
町内外での積極的なPR、プロモーション	9,089	
産業振興による移住・定住の促進等	26,276	
3 地元定着を促進するための地域づくり活動や暮らしについての支援	17,526	
若者の地域活動への支援と町内ネットワークの構築	11,010	
若者の結婚、子育てに関する支援	6,516	
計	719,598	200,000
県町協働事業		
白神山麓のナラを活用した菌床生産の調査・検討	3,257	
八峰町実施事業・県町協働事業 合計	722,855	200,000

3 国営かんがい排水事業「八郎潟」地区の概要について

農地整備課

国営八郎潟干拓事業（昭和32～51年度）などにより造成された基幹水利施設について、経年劣化が著しく進行していることから、施設の改修等を実施し、農業用水の安定供給や維持管理費用の削減、湛水被害の軽減に加え、水質保全機能の増進を図る。

1 受益面積

11,733ha

2 主要工事

取 入 口（改修） 5か所

用 水 路（改修） 93.6km

排 水 路（改修） 11.1km

水管理施設（新設） 一式

3 予定工期

令和3～24年度

4 総事業費

488億円

5 関係市町村

大潟村

6 予定負担区分

国79.33%、県12.00%、地元8.67%（村6.00%、農家2.67%）

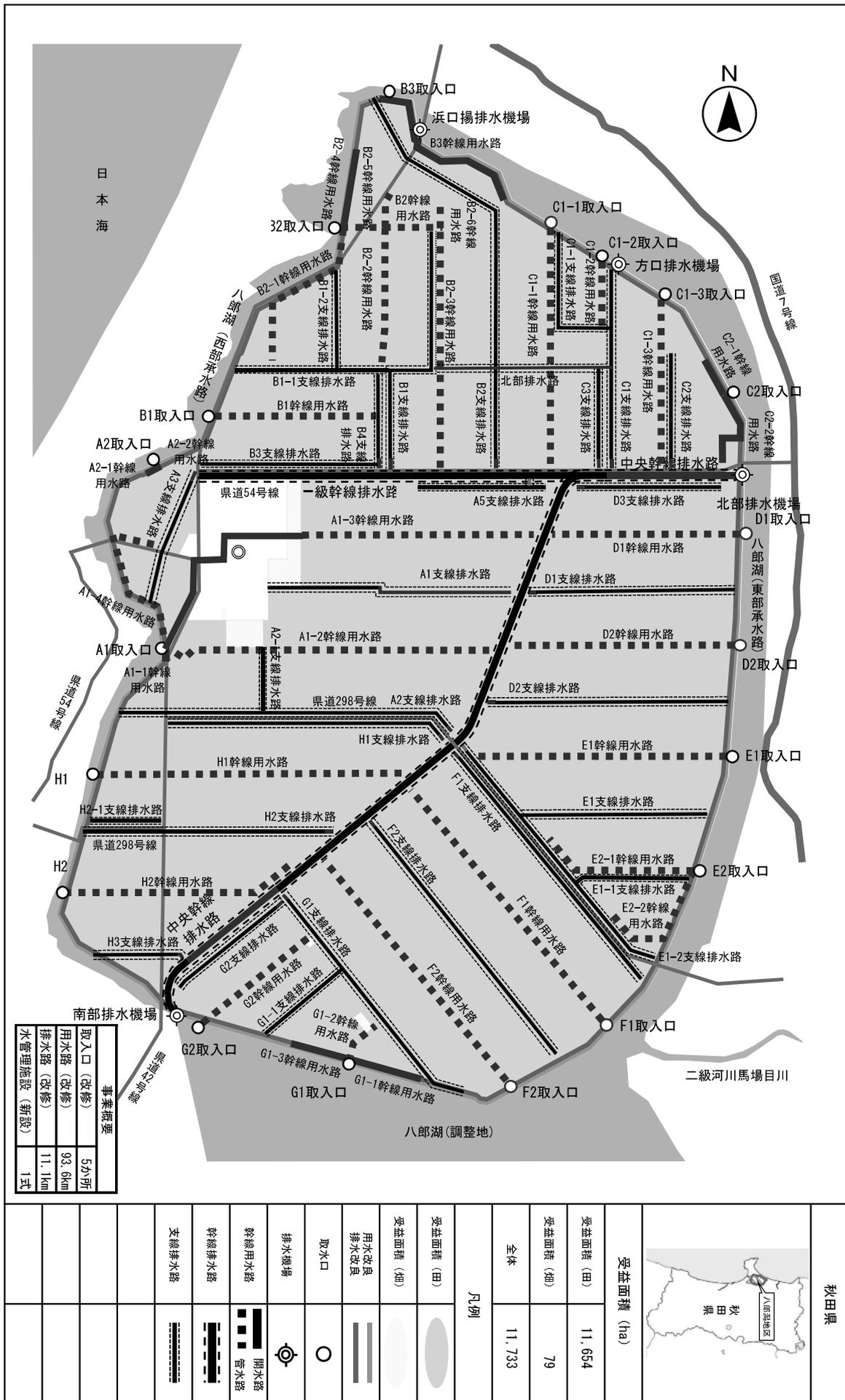
【参考1】過去に本地区周辺で実施された国営事業

- ・ 国営八郎潟干拓事業（昭和32～51年度）
- ・ 国営総合農地防災事業「男鹿東部」地区（平成8～19年度）
- ・ 国営造成土地改良施設整備事業「馬場目川下流」地区（平成14～18年度）

【参考2】国営事業と関連する附帯県営事業

- ・ 県営かんがい排水事業
受益面積 2,622ha
主要工事 小用水路（改修） 104.0km
総事業費 47億円（予定）

【参考3】事業概要図



4 ハタハタの漁獲状況と今後の対応について

水産漁港課

1 今期の漁獲状況（令和3年1月31日現在）

- 沖合の漁獲量は、218 t（対漁獲枠67%、対昨期78%）で、漁獲金額は、2億534万円（対昨期118%）となっている。（漁期：9月1日～翌6月末日）
- 沿岸の漁獲量は、191 t（対漁獲枠59%、対昨期40%）で、漁獲金額は、1億4,054万円（対昨期74%）であった。（漁期：1月15日終了）
- 県全体の漁獲量は、409 t（対漁獲枠63%、対昨期54%）で、漁獲金額は、3億4,588万円（対昨期95%）となっている。
- 今期は、大型である3歳魚が比較的多かったことや漁獲量が少なかったことから、平均単価は1.75倍程度となった。

【地域別漁獲量】

単位：t

地 域	今 期（R 2）			昨 期 漁 獲 量	対 昨 期	
	漁 獲 量	漁 獲 枠	対 漁 獲 枠			
沖 合	県 北 部	36	132	27.4%	107	33.9%
	船 川	78	78	99.7%	80	97.3%
	県 南 部	105	115	90.9%	92	113.7%
	計（1/31現在）	218	325	67.1%	279	78.2%
沿 岸	県 北 部	64	91	70.9%	136	47.4%
	男鹿北部	26	93	28.2%	208	12.6%
	男鹿南部	7	52	12.6%	17	38.8%
	県 南 部	94	89	105.4%	118	79.5%
	計（1/15漁期終了）	191	325	58.8%	479	39.9%
合 計		409	650	62.9%	757	54.0%

※ ハタハタ漁期 沿岸：11月1日～翌1月15日、沖合：9月1日～翌6月末日

※ 小数点以下の端数処理により計などが一致しない場合がある

【地域別漁獲金額】

単位：千円

地 域	漁 獲 金 額		対 昨 期	
	今 期（R 2）	昨 期（R 1）		
沖 合	県 北 部	31,709	67,279	47.1%
	船 川	68,664	57,778	118.8%
	県 南 部	104,969	49,611	211.6%
	計（1/31現在）	205,342	174,667	117.6%
沿 岸	県 北 部	65,166	83,741	77.8%
	男鹿北部	14,884	34,875	42.7%
	男鹿南部	8,286	12,465	66.5%
	県 南 部	52,205	59,830	87.3%
	計（1/15漁期終了）	140,542	190,910	73.6%
合 計		345,884	365,578	94.6%

2 今後の対応

(1) 資源量の推計について

- 自家消費分等を含めた正確なハタハタ漁獲量を把握するほか、操業日誌等により、詳細な操業実態を把握することで、本県における資源量の推計を行う。
- 北部日本海各県や国の研究機関等と漁獲データや資源管理に関する情報交換を行い、北部日本海系群のハタハタ資源量の推計に取り組む。

(2) 原因究明について

- 近年、漁獲量の減少と漁場の偏りが顕著になってきていることから、ハタハタ資源量の推計結果や、漁期終了後に実施した産卵状況調査、年間を通して行っている県調査船千秋丸や民間船によるハタハタの漁獲状況、海水の流向・流速・水温データ等を収集・解析し、原因究明に努める。

(3) 来期に向けた取組について

- タブレット等を搭載した漁船と水産振興センター、県漁協が、漁獲量や操業位置、海水温などの詳細な情報をリアルタイムで共有できる体制を強化し、より高度な資源管理を目指す。
- 「第8期資源管理計画」が今期で終了することから、ハタハタ資源対策協議会において、これまでの漁獲状況等を分析するとともに、資源管理手法について検討し、実効性の高い次期管理計画を策定する。

5 秋田林業大学校における林業トップランナー養成研修の取組状況について

森林整備課

1 第5期生(平成31年4月入校)の動向

修了生15名全員が県内の森林組合や林業会社等に就職することが決定した。

【内訳】

- ・ 森林組合 4名
- ・ 林業会社 9名
- ・ 木材加工会社 2名

2 第7期生(令和3年4月入校)の選考状況

新期生は定員の18名となった。

【内訳】

- ・ 推薦選考 合格者15名(申込者16名 高校卒業見込者)
- ・ 一般選考 合格者3名(申込者7名 大学卒業見込者等)

3 今後のスケジュール

(1) 修了式(第5期生)

- ・ 日時：令和3年3月11日(木) 10:00~10:30
- ・ 場所：森林学習交流館「プラザクリプトン」(秋田市河辺)

(2) 開講式(第7期生)

- ・ 日時：令和3年4月8日(木) 10:30~11:00
- ・ 場所：森林学習交流館「プラザクリプトン」(秋田市河辺)

【参考】就職等の状況

単位：名

就職先等	第1期生	第2期生	第3期生	第4期生	第5期生	合計
森林組合	5	6	7	6	4	28
林業会社	8	8	6	7	9	38
木材加工会社	4	3	—	2	2	11
住宅資材総合商社	1	—	—	—	—	1
木材流通会社	—	—	1	1	—	2
秋田県立大学	—	—	1	—	—	1
計	18	17	15	16	15	81